

資本コストや株価を意識した経営の推進・対話の促進

- 積極的に取り組む企業のサポート施策を継続的に推進 ⇒ 資料 2
 - プライム市場：9割超の企業が開示し取組みに着手する中、ポイント・事例集のアップデートなどプラクティカルなコンテンツを提供【11月～12月上旬】
 - スタンダード市場：約半数の企業が未開示である点も課題
 - 企業の目線感向上のための啓発（ROE 8%・PBR 1倍を超える安心という意識の企業が多い）【継続】
 - 機関投資家とのコミュニケーション促進（機関投資家に対する理解を深めるためのサポート、開示企業リストの改良）【継続】

※ I R 体制の義務化（あわせて「I R 体制・I R 活動に関する投資者の声」を公表）【2025年7月22日施行】

資本コストや株価を意識した経営を推進する中での課題

親子上場

- グループ経営や少数株主保護に関する検討・開示を推進
 - 親子上場等に関する投資者の目線も踏まえ、開示状況をフォローアップ【2025年秋】
 - 開示のポイント・事例集の公表【2025年冬】
- ※ 少数株主保護の観点から必要な上場制度の整備についても、検討を継続（上場子会社の独立社外取締役の独立性確保など）

完全子会社化・MBOが増加する中での課題

非公開化

- 一般株主の公正な利益確保の観点から、特別委員会における検討の実効性向上や必要な情報開示の充実を推進
 - 企業行動規範の見直し【2025年7月22日施行】

※ 非公開化の場面など社外取締役向けの啓発（セミナー等）を開始【順次】

スタートアップ企業の成長促進

- 「高い成長を目指す企業」が集うグロース市場とするための施策を推進 ⇒ 資料 3
 - 上場維持基準の見直し【9月下旬、パブコメ】
 - 「高い成長を目指した経営」の実現に向けた対応の働きかけ（グロース市場全上場企業が対象）【9月下旬】
 - ・ グロース企業に期待される企業像の提示
 - グロース企業向けサポート策の推進、メリットの創出
 - ・ 投資家が評価している好事例を提供【11月～12月上旬】
 - ・ 積極的に取組みを進める企業の一覧化【年明け】
 - ・ グロース企業向けセミナーや、機関投資家とのスマートミーティング等の開催【順次】
- ※ 経営者との意見交換を踏まえながら継続的に実施

（参考）TOPIXの見直し（第2段階）

➢ スタンダード・グロースからも組み入れ（2026年10月以降）

- スタンダード市場の今後の方向性【検討開始】 ⇒ 資料 4
- プロマーケットの位置づけの再整理【今後検討】

経過措置の終了に伴う対応

- 経過措置終了のスケジュールや改善期間入り企業について、株主・投資者への周知・注意喚起を強化【継続】
- 改善期間入り企業に対し、取組みの進捗や上場廃止リスク等について、株主・投資者への丁寧な説明・情報提供、必要な取組の検討・実施も要請（個別のヒアリングも実施）【継続】

※ プライム市場の英文開示義務化後の状況をフォローアップ ⇒ 資料 5